



QI + 5 / QHI 5 リリースノート・更新マニュアル

目次

QI + 5/QHI5 リリースノート	3	QHI4.0 リリースノート	25
QI + 5 リリースノート	4	ジョブフォルダを許可 (ファイル結合)	26
Acrobat トラブルシューティング	4		26
(保護モード対応 (Windows))	5	QI + 4 リリースノート	27
保護モードの解除	5	「文字列 / 番号」を貼る	29
保護モードとは何を保護するものです か?	6	フォントの埋め込み	30
新機能詳細	8	ショートカット	31
可変データ	8	挿入ページ	32
分割 / 結合 (一部)	9	「タイルページ」	33
ページ割付	9	「PDF ページ」	34
クリープ	9	「手動面付け」	35
ページモニタ	9	スマートトンボ	36
トリム / シフト	10	「剥がす」	37
手動面付け	10	「ページサイズ」	38
検索	10	「ページツール」	39
シーケンスのインポート	10	「ページ組替え」	40
プロンプトメッセージ	10	「トリム & シフト」と「クリープ」	41
コントロールパネルのカスタマイズ	11	「マスキングテープ」	41
パネルの作成	11	シーケンスの「管理」	42
コントロールパネルへ追加	11		
パネルの編集	12		
可変データ	13		
テキストブロック	14		
分割 / 結合 (一部)	16		
分割 / 結合の例 1	16		
分割 / 結合の例 2	17		
分割 / 結合の例 2 詳細	18		
ページ割付機能の強化	20		
トリム / シフトとクリープの強化	21		
ページモニタ	22		
自動化シーケンスの機能強化	23		

QI + 5/QHI5 リリースノート

- ・QI + 5 は、Adobe® Acrobat® Pro 製品のプラグインとして提供されます。
- ・QHI 5スタンドアロンのアプリケーションとして提供されます。

動作環境

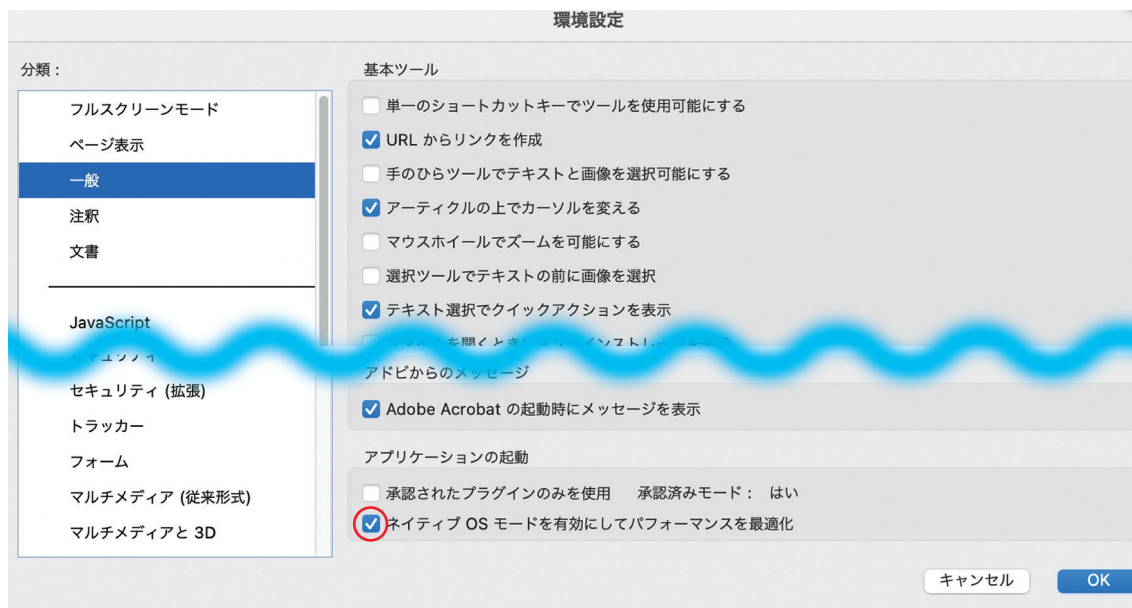
QI + 5

Adobe Acrobat Pro 9/10/11/2015/2017/2020/DC

QI + 5	Windows	Windows 10/11
	MacOS	10.11 (El Capitan) ~ 10.15 (Catalina) ・ 11.x (Big Sur) ・ 12.x (Monterey)
QHI5	Windows	Windows 10/11 Pro ・ Server 2016/2019

Apple Macintosh「M1 チップモデル」では Adobe Acrobat DC 2021 以降を使用することで、M1 チップネイティブ OS モードで動作します。

Mac 用 Acrobat DC 環境設定>一般>「ネイティブ OS モードを有効にしてパフォーマンスを最適化」チェックされていないとネイティブ OS モードでは動作しません。



QI + 5 リリースノート

QI + 5 は、5.2 のアップデート以降、Adobe Systems の新しい技術を 2 つサポートしています。

64bit Acrobat (Windows) と保護モード

注：Macintosh 版は、AcrobatDC 以降 64bit アプリケーションになっています。

Acrobat (Windows) は 32bit OS と 64bit OS どちらの環境でも動作する 32bit アプリケーションです。

Adobe Systems は、Acrobat (Windows) の 64bit ネイティブ対応を発表しました。

この 64bit 対応は、32bit 用の Acrobat プラグインを、すべて 64bit の新しいプラグインに変更する必要があります。

Adobe Systems では、64bit 化を言語地域ごとに、段階的にリリースしています。順次移行し最終的に Acrobat の 32bit 版は利用できなくなるでしょう。

QI + 5 には、32bit および 64bit の Acrobat に対応したプラグインが含まれており、Acrobat のバージョンに応じて正しいバージョンがインストールされます。

注：64bit の Acrobat は古いプラグインを使用できません。

64bit 版へのアップグレード手順

1. 32bit の Acrobat をアンインストール
2. 64bit の Acrobat をインストール
3. QI + 5.2 以降のプラグインをインストール (インストール済の古いプラグインは使用されません)

※旧バージョンの QI + プラグインはアンインストールの必要はありません。

Acrobat にプラグインメニューが表示されない場合のトラブルシューティング

QI + 5 がインストールされていても、「プラグイン」メニューを表示しないというユーザー報告があります。

64bit の Acrobat では、さらにこの現象が増える可能性があります。これは、Acrobat のライセンスに起因することが多いのですが、プラグインは読み込まれないので、このような場合にメッセージを出すことはできません。

ここでは、「プラグイン」メニューが表示されない場合のヒントをご紹介します。

これらのヒントは、Mac ユーザーにもあてはまります。

- Acrobat にサインインすると、初回はプラグインなしで動作することがあります。

Acrobat を終了します。

AdobeID からログアウトし、再ログインしてください。

(AdobeID にログインを行うとログインするプロファイルを選択する必要があります)

- この現象は、元々サインインしていた状態に、強制的にサインインした場合にも発生することがあります。

- Acrobat のライセンスが確認できない場合、または購入されていない場合、Acrobat は無料の AcrobatReader であるかのように動作することがあります。

Acrobat がライセンス認証されていない場合、プラグインはロードされません。

認証を確認するには、Acrobat の「PDF の編集」ツールを使用します。

編集ツールが利用できない場合は、QI + 5 も利用できない可能性があります。

- 起動時に Shift や Ctrl などのキーを押していないか確認してください。

Acrobat、環境設定、一般、「アプリケーションの起動」・「承認されたプラグインのみを使用」の設定を確認します。

ボックスがオフになっている必要があります。
(注:「承認済みモード」は無視してください。)

保護モード対応 (Windows)

注: Adobe Acrobat の保護モードは Windows 版から先行して搭載されています。

QI + の古いバージョンをご利用の場合は、保護モードをオフにするか、保護モードに対応した QI + 5 (5.2 以降) にアップグレードすることをお勧めします。

古いバージョンの QI + では、ライセンス情報の保存や、DC にアップグレードできないなどの重大なエラーが発生します。

ライセンス情報を保存できない場合、設定の保存や自動化シーケンスを使用できません。

2020 年以降、Acrobat は Windows で「サンドボックス」と呼ばれる機能を提供しています。新規インストール時に標準で設定されるため、最終的に多くの Windows ユーザーに影響を与えます。

この機能は、未知の脅威に対し PC を保護します。このモードでは、ダウンロードされた PDF など保護対象のファイルを開けなくするため、QI + 5 などのプラグインは動作しない可能性があります。

QI + 5.2 以降のバージョンには「ブローカー(中継) プラグイン」が含まれ、Acrobat のセキュリティを維持しながら、QI + 5 からアクセスできるようにになっています。

この中継プラグインは QI + 5 とともにインストールされ、保護モードがオンの場合に使用されます。

保護モードは、Acrobat の「環境設定」の「セキュリティ(拡張)」から制御します。

「サンドボックスの保護」の項目で、「起動時に保護モードを有効にする」オプションを設定できます。

このファイルを別のウィンドウで再度開く場合に、問題となるケースがあります。

例えば、以前と同じバックグラウンドページやソースデータを使用する場合です。

次のようなプロンプトが表示されることがあります。



QI + からのアクセスを許可することができます。アクセス許可は、そのファイルだけでなくフォルダ内全てのファイルへアクセスを許可することができます。アクセスは、Acrobat を終了するまで許可されます。

フォルダへのアクセスは、サブフォルダには適用されず、別途許可する必要があります。

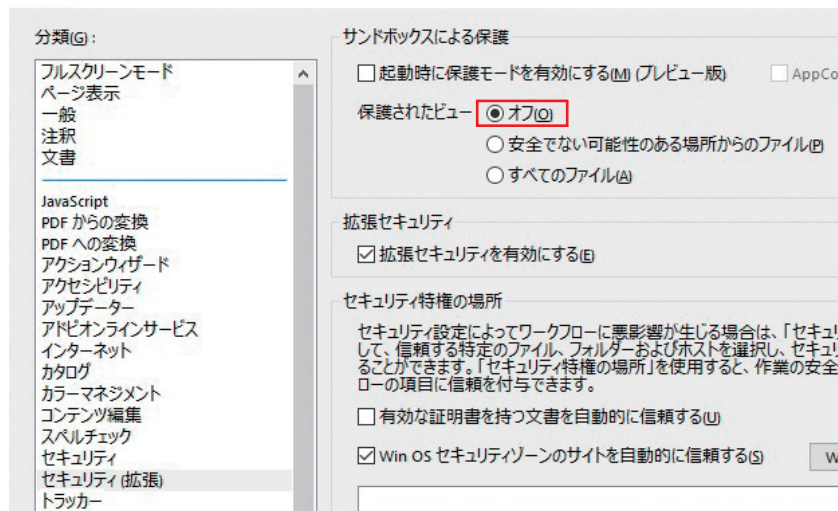
デスクトップやドキュメントなど、他の種類のファイルが存在するフォルダへアクセスを許可することはお勧めしません。

保護モードの解除

保護モードのオフは、以下の手順になります。古いバージョンの QI + を実行するためにこのモードをオフにした場合は、インターネットや電子メールから PDF を開く前にオンにした方がよいでしょう。

PDF を開く前にオンにしてください。

保護されたビューがオフであることを確認します。



保護モードとは何を保護するものですか？

保護モードは Adobe Systems の機能であり、予告なしに仕様を変更することもあります。

「保護モード」は「サンドボックス」の一種です。サンドボックス機能は、最近の多くのアプリ、特にウェブブラウザに搭載されています。

サンドボックスは、未知の脅威から PC を保護します。「未知の脅威」とは、コンピュータウイルスやマルウェアによる PC への攻撃です。

未来のハッカーによる「攻撃方法」は不明です。ハッカーの目的は、お客様の PC にあるファイルや情報にアクセスして、そのファイルや情報を破壊したり、第三者と共有したりすることです。攻撃方法の 1 つは、Web ページのリンクや PDF ファイルなど一見何の問題もないものをお客様の PC に送りつけることです。

全てのブラウザと Acrobat は、このような無害に見えるファイルにアクセスできないように設計されています。古いバージョンには、攻撃者が利用できるバグがありました。

これらのバグは(最新の状態を維持していれば)修正されますが、今後もバグを発見される可能性があります。

サンドボックスの考え方は、たとえ攻撃者がバグを見つけたとしても、そのアプリは PC 上のファイルにアクセスできないというものです。

これは二重のセキュリティを意味しています。

保護モードの Acrobat は、現在のセッションで使用するファイルのみにアクセスを許可します。

QI + 5 のようなプラグインでは大きな問題となります。以前に使用したファイル (バックグラウンドファイルとして使用された PDF や CSV データなど) を使う場合です。

そのため QI + 5 は保護モードを利用しながら、これらのファイルへのアクセスを確認して使用することができるようになりました。

5.0 新機能 - リスト

- ・コントロールパネルのカスタマイズ: カスタムパネルを追加しシーケンスをボタン登録します。
- ・可変データ (CSV または TXT) ファイルを使用して、多くの PDF ページに簡単なテキスト、画像、またはテキストブロックを追加します。
- ・分割／結合 (一部) では、ジョブを分割したり、パーツを別々に処理したりすることができます。

処理された PDF は、1 つに結合するか、別々のままにしておくこともできます。

- ・ページ割付のレイアウトを容易にするフローオプションが使用できます。
- ・クリープ機能のクリープアシスタントではページシフトに加えて、横方向に縮小する機能を追加しました。

シフトによりコンテンツが切れてしまう場合に使用できます。

- ・ページモニタは、開いている「書類のサイズ / 裁ち落としサイズ」などの情報を表示します。
- ・手動面付け時、容量の大きいファイルの処理速度を向上しました。
- ・トリム / シフト :4 つの辺すべてを一定量だけ追加またはトリミングする機能を追加しました。
- ・分割／結合の条件は、ページ数、ページサイズ、またはメタデータ (ファイル名やキーワード) に基づいて異なるジョブなど、より柔軟な操作性を実現します。

- ・新しくシーケンスを作成する際など、他のシーケンスまたは XML からシーケンスをインポートして、より簡単に作成できる機能が追加されました。

シーケンスを名前によりフィルタリングし表示することができます。

エラーまたは警告メッセージを発行し、間違ったページサイズまたはページ数などの問題がある場合にジョブを停止することができます。

新機能詳細

コントロールパネルのカスタマイズ

- QI + コントロールパネルを変更、または別々に表示する新しいパネルを作成できます。
(ジョブごとに異なるパネルを作成しておき、操作性を向上しミスを防ぐ効果があります。)
- 標準コントロールパネルボタンの配置変更やボタンの削除。
- 自動化シーケンスを実行するボタンの追加。
(シーケンスの編集後、自動的にボタンとして追加することもできます。)
- その他のコントロールパネルを開くボタンを追加できます。
- コントロールパネルは簡単にリセットできます。

可変データ

- 可変データ(CSV または TXT) ファイルを使用して、多くの PDF ページに簡単なテキスト、画像、またはテキストブロックを追加します。
- マスターページは、ページのコピーを作成し、各ページのコピーに可変データの文字列または画像を順番に追加していきます。
マスターページを使用しない場合は、ファイル全体に文字列または画像を追加します。
- Excel またはその他のソースから CSV または TXT(タブ区切り) ファイルを使用します。
※ UTF-8 (unicode) で保存します。CSV UTF-8 形式の保存は Excel2019 以降、それ以前のバージョンでは CSV に書き出し後メモ帳などで文字コードを変換します。
- テキストデータには文字列 / 番号を貼るの機能が追加されます。
(フォント、位置、角度、色などを選択)
※ CSV/TXT ファイルには追加するテキストと配置する画像のページ番号のみ入力します。
- マスターファイルから画像を追加し、追加したい画像をすべてページ分けして保存します。
画像を、PDF ページに貼り付ける機能(位置、倍率など)が追加されます。
- 宛名印刷の場合には、テキストブロックの追加、文字列情報の設定、空白(行)の間をつめる機能などを使用します。

分割 / 結合（一部）

- 同一ファイルの異なる部分に異なる面付コマンドを適用できます。例えば、一部のシートを 4×2 としてレイアウトし、一部のシートを 2×2 としてレイアウトすることができます。
 - ページ数で分割するか、同サイズのパーツに分割します。
 - ページ数で分割する場合、ページの並び替えやページの回転など、「ページ組替え」のコマンドを使用することができます。
 - 分割 / 結合の実行後、1つのPDFにまとめるか、別々のファイルにするか選択できます。
- ※ Acrobat には同時に開くドキュメントの数に制限があります。
(QI + の制限ではありません)

ページ割付

- 面付けレイアウトをより簡単ににするために、両面のフロー設定を選択できます。
- ページ組替えを省略し、表裏がミラーになるページ順でページ割付を行います。(定型)

クリープ

- 一般的に中綴じ用のクリープ設定は、紙の厚み分を各ページごとにシフトしますが、横方向に縮小する新機能は、シフトにより端が切れてしまう場合に使用できます。

QI + 5 プラグインメニューの再編成

- 一部のプラグインタブから表示するメニューは、コマンド名が長く見えにくい点があり、より短いメニュー表示に再編成しました。(コントロールパネルのコマンド名と一致)

ページモニタ

- 現在開いている書類のサイズ / 裁ち落としサイズなどの情報を表示します。
- Acrobat で最初にドキュメントを開くと、自動的に開始するように設定できます。

トリム / シフト

- 4つの辺すべてを一定量追加またはトリミングします。
- 以前のバージョンでは、一辺のみ追加またはトリミングするか、すべて同じサイズに設定することができました。

手動面付け

- 容量の大きいファイル（ページ数が多いファイル等）の処理速度を向上しました。（手動面付け時にファイルサイズが非常に大きくなるケースも改善されています。）
- ページ数が多い手動面付けを、「バッチモード」で実行する場合などに処理速度の向上を確認することができます。

検索

- 自動化シーケンスの絞り込み検索に使用します。
- ジョブに応じて、必要なシーケンスを選択する際に利用します。
- シーケンス名に含まれる文字列（例：ページ数、サイズ、ジョブ名、面付形状名等）で絞り込み、必要なシーケンスを表示できます。

シーケンスのインポート

- 現在開いている書類、他の PDF ファイル、または XML ファイルからインポートできます。
- 新しくシーケンスの作成・編集から他のシーケンスをインポートして編集できます。
- 編集できないシーケンスとしてインポートすることで、使用されたシーケンスまたは、XML ファイルの内容を確認できます。
- 編集できないシーケンスを編集可能に変更することができます。

プロンプトメッセージ

- 自動化シーケンスでメッセージを使用できます。
- ページサイズやページ数がシーケンスの条件に合わない場合、エラーとして停止させることができます。

補足マニュアル

コントロールパネルのカスタマイズ

QI + 5 のコントロールパネルをカスタマイズして、ボタンを増減させることができます。

特定のジョブ専用のコントロールパネルとして、またジョブをスムーズにこなせるカスタマイズなど、カスタムパネルを複数設定することができます。

新しいパネルの作成は、「個人パネル」メニューから選択できます。

パネルのカスタマイズは、任意のパネルを右クリックして設定します。

※「カスタムコントロールパネル」と「標準コントロールパネル」はいつでも切り替えることができます。

パネルの作成

パネルを作成するには、プラグインメニューの「個人パネル」>「新規パネル」を使用するか、任意のパネルを右クリックして「パネル」>「新規パネル」を選択します。

新規パネルの名前を入力します。デフォルトは個人パネルです。

（名前が重複しないよう必要に応じて番号が追加されます）

パネル作成コンテンツには以下の選択肢があります。

- ・空白：ボタンも何もない状態です。：右クリックしてボタンやグループを追加します。
- ・標準コントロールパネルのコピー：標準状態をコピーして編集します。
- ・その他パネル（編集可能）：既存のパネルをコピーして編集します。
- ・自動化シーケンス：既存の自動化シーケンスを実行します。

※注意 設定の変更はすぐに保存され、キャンセルできません。

コントロールパネルへ追加

以下の項目をコントロールパネルに追加できます。

- ・標準コントロールパネルにある標準ボタンの追加：パネルを右クリックして「標準ボタン追加」ボタンを選択します。
- ・自動化シーケンス：このボタンをクリックすると、登録されているシーケンスが実行されます。

「自動化シーケンス」は次の3つの方法で追加できます。

- ・パネルを右クリックして、「シーケンスボタンの追加」を選択します。選択すると、そのカテゴリとシーケンスのボタンが追加されます。

シーケンスのカテゴリ名がグループ名となり、自動化シーケンスボタンが配置されます。

- ・パネルを右クリックし、「カテゴリ内全シーケンスの追加」を選択します。

選択すると、すべてのシーケンスボタンを含む1つのグループボックスが追加されます。

※カテゴリ内に多数の自動化シーケンスがある場合、パネルサイズに合わない可能性があります。注意が必要です。（多すぎる場合はグループボックスを削除します）

- ・シーケンスパネルからシーケンスを編集します。2番目の画面で、「シーケンスの実行ボタンをコントロールパネルに追加」を選択して実行します。

カスタムコントロールパネルにのみ追加されます。

- ・グループボックスを使用することで、グループ名を付けてボックスを配置できます。ボックスにはボタンを配置できます。

パネルを右クリックして「グループボックスの追加」を選択します。

- ・「パネル表示追加」を使用すると、グループ内に別のコントロールパネルを登録できます。

パネルを右クリックして「パネル」>「パネル表示追加」ボタンを選択しパネルを表示します。

パネルの編集

パネルの編集は、右クリックから以下の方法で編集できます。

- ・ボタン削除：ボタンを右クリックして削除します。

- ・グループボックス削除：ボックスのタイトルを右クリックして削除します。

事前にボタンを移動しておかない場合、ボックス内のすべてのボタンも削除されます。

- ・上に移動：ボタン及びグループを上（左）に移動します。

ボタンはグループ内で移動し、グループボックスの初めにある場合、グループボックスの外に移動します。

- ・下に移動：同じく下（右）に移動します。

- ・ラベルの変更：各アイテムの名前を変更します。機能は変更されません。

- ・「パネル」>「パネルの複製」：現在のパネルのコピーを作成します。

- ・「パネル」>「パネル名変更」：パネルの名前を変更します　・「パネル」>「パネル削除」：パネルを削除します。

- ・「パネル」>「リセット（コントロールパネル）」：元のコントロールパネルにリセットします。

その他にカスタムコントロールパネルを削除したり、すべてのパネルを削除することもできます。

可変データ

可変データは、CSV などのテキストファイルを読み取り、その可変情報を対象の PDF に追加します。テキスト情報は、「文字列 / 番号を貼る」機能のように追加され、画像は、貼りつける画像 PDF を CSV に記述されたページ番号によって、そのページ順にある画像を貼りつけます。

このテキストファイルを、「データソース」と呼びます。

可変データ結合は、次の 2 つの方法いずれかで使用します。

・「マスター書類」がある場合：マスター PDF は都度コピーされ、データソースの可変テキストまたは画像を貼りつけます。

繰り返して使用する PDF を「マスター」と呼びます。

これは、Microsoft Word® や Adobe InDesign® などのデータ結合 / 差し込み印刷機能と類似しています。

「マスターではありません」：既存のページにレコードを追加します。

この書類は複製されず、各ページにデータソースを使用した情報を追加します。

これは、「文字列 / 番号」の貼りつけ、「PDF ページ」の貼りつけに似ていますが、書類の各ページ（またはページの各グループ）に異なるテキストまたは画像を貼りつけます。

可変データサンプル

製品名	特徴	価格	画像
EHD-MST14050LM	立ち作業や小規模ミーティングデスクに最適なスタンディングデスク。	¥38,280	1
ALD-14070N	オフィス環境に柔軟に対応。	¥108,900	2
ERD-MTGN180120W	電動昇降で素早く立ち座りの姿勢を取れるミーティングデスク。	¥338,800	3
ERD-HL12070	耐荷重 200kg 工場などでの作業台に最適な電動上下昇降作業台。	¥440,000	4

※書き出しするエンコードは UTF-8(unicode) で書き出します。

例 Microsoft Excel から CSV 書き出しを行う場合、2019 以降のバージョンでは「CSV UTF-8」を書き出すことができます。それ以前のバージョンでは、一旦 CSV へ書き出し、「メモ帳」などで文字コードを UTF-8 に変更して使用します。

コントロールパネル>可変データを選択します。

初めにマスター書類の有無を選択します。

マスター書類がある場合：通常 1 ページですが、シートの表裏など複数ページの場合があります。

書類全体に繰り返して同じマスターを使用します。

「単一ページマスター」を選択した場合、現在の書類は 1 ページである必要があります。

「複数ページマスター」を選択した場合、現在の書類は複数ページ（表裏など）になります。

「マスターではありません」を選択した場合、現在の書類に対し、各レコードを使用するページ数を選択する必要があります。

通常値は 1 です。

「全てのレコードに適切なページ数を確認します」のチェックは、テキストの行数と PDF ページ数が一致しない場合エラーになります。

次に、ソースファイルを選択します。（▽からブラウズ）

※使用するファイル形式を選択し、エンコーディングは「unicode」を選択してください。

次に、テキスト情報を書類に追加する位置を選択します。最低限 1 つ以上の「フィールド」を追加する必要があります。

テキスト用のフィールドでは、フォントの種類、サイズ、位置、色などを選択します。複数のテキストを一緒に追加するには、以下のテキストブロックを参照してください。

画像用のフィールドでは、追加する画像を画像だけの PDF ページを単一ファイルとして準備する必要があります。

※切り抜き画像はクリッピングパス保存して下さい。

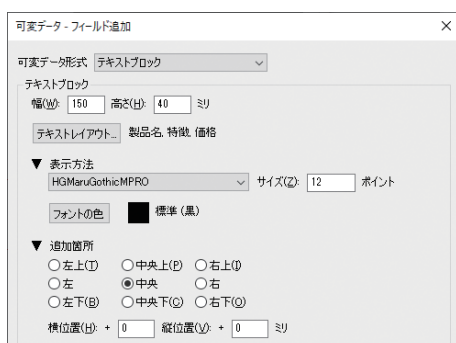
テキスト情報には、追加する PDF ページ番号を記載しておきます。

テキストブロック

テキストブロックは、可変データの便利な機能です。

宛名ラベルなどのテキストブロックを作成できます。

- ブロック内のレコード表示をプレビューします。
- 「同行」は列を 1 行に結合します。



・「空白の間をつめる」機能は、行が空白になる場合に、空白行を上部に詰めます

・テキストを入力できます。

「テキストブロックの追加」

可変データ・フィールド追加画面で、ブロックのサイズを入力します。

ターゲットとなる現在のページには、ブロックを配置する場所に対して赤い枠を表示します。

配置する位置を入力し、フォントとサイズを選択します。

次に、テキストレイアウトをクリックします。

テキストブロックには、必要な数の要素があり、「テキスト追加」を選択することで任意のテキストを入力できます。

必要に応じて列を調整します。

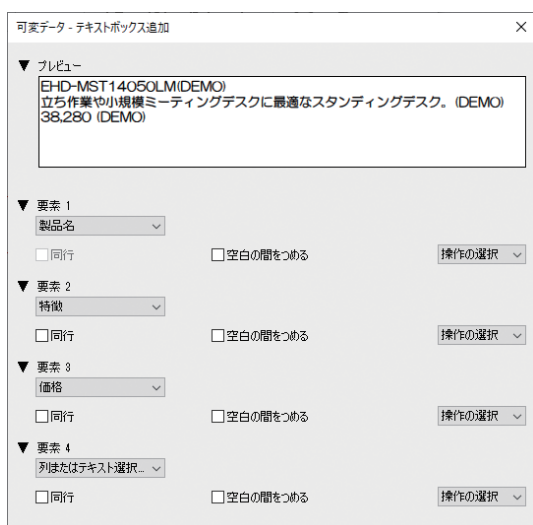
・不要な要素を削除するには、右側の「操作の選択」から「削除」を選択します。

・要素1の例 ここでは「製品名」

・要素2の例 ここでは「特長」

・要素3の例 ここでは「価格」をそれぞれ選択します。

プレビュー表示が更新されます。



複数のテキストブロックを作成し、画像フィールドと混在させることもできます。

分割 / 結合（一部）

分割 / 結合は、1つの書類を複数のパーツに分割し、各パーツに異なるコマンドを実行できます。
(折丁にしたがって書類を分割し、異なるページ割付のシーケンスを指定できます)

全ての処理実行後、1つのPDFにまとめるか、別々のファイルのままにしておくかを選択できます。
この機能の主な用途は、異なるサイズのシートまたは異なるレイアウトを使用するケース、例えば無線綴じの表紙と本身などを一連の流れでレイアウトを行うことができます。

1. 文書の分割方法を選択します。ページ数によっていくつかの方法で分割できます。

a. 奇数と偶数：2つに分割されます。

b. 分割ページリスト：各パーツに分割する正確なページリストを入力します。

書類全体のページ数を「分割ページの合計…」に入力しページ範囲を指定します。

「ページ組替えのルール」のようにページを回転させることができます。

c. 同サイズのパーツ：入力したページ数で分割されます。

最後の分割ページは端数のページ数となります。

例：38 ページの書類、ページ数 10 を選択すると、10・10・10・8 ページの分割書類ができます。

2. 各分割書類に対し処理方法を選択します。

各パーツにシーケンスコマンドを指定します。ここで使用するシーケンスは事前に設定しておき、インポートボタンを使い設定することをお勧めします。

シーケンスコマンドを指定しない場合、そのパーツは変更されません。

3. パーツを結合する

Acrobat 自体の制限にご注意ください。Acrobat は、多数の書類を同時に開くことができないため、制限以上の書類を開こうとする場合にエラーとなります。

(制限数は Acrobat のバージョンによって異なります)。

※ QI + 5 の制限ではありません。

書類の結合は、処理後のファイルを1つのファイルに再度結合します。

QI + 5 では、新規書類を作成する（推奨）か、開いているファイルをそのまま利用するかを選択できます。

分割 / 結合の例 1

1. 繰り返し番号を貼り付ける

例：リピートナンバリングの方法を説明します。

各グループ（16 ページ）に 1 から 16 までの番号を付けていきます。

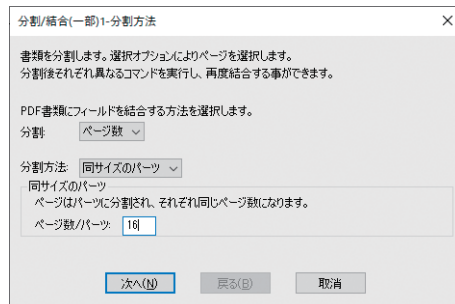
17 ページには 1 番を付けます。

- この処理では、書類を各 16 ページに分割します。
- 各パーツに同じコマンドを実行するため、それぞれに 1 ～ 16 の番号が付けられます。
- パーツを 1 つのファイルに結合します。(ページの順番は変わりません)

分割 / 結合 (一部) の最初のダイアログ

分割方法: 同サイズのパーツを選択し、ページ数 / パーツに 16 と入力します。

※ 1 つのパーツを 16 ページにします。



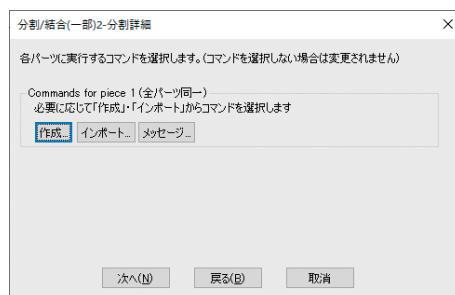
次に、シーケンスコマンドを選択します。

「作成」からシーケンスを追加します。

左側の「文字列と番号を貼る」を選択し、ナンバリングする番号を設定します。

「文字列と番号を貼る」コマンドで設定された文字列を追加します。

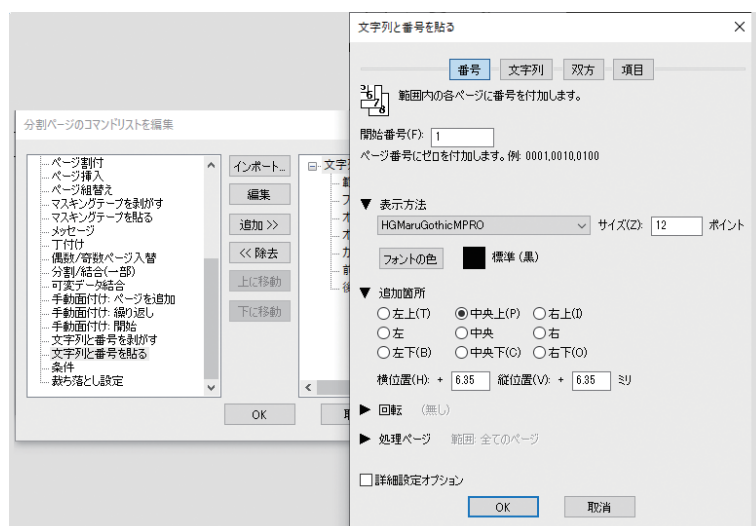
シーケンスの追加は必須ではありませんが、シーケンスコマンドを指定しない場合、そのパーツは変更されません。(書類は分割され、同じ順序で再結合されます)



最後にパーツを結合するか、別々に保存するかを選択できます。

結合するを選択した場合、結合された PDF ページが 1 ファイルとして作成されます。

分割 / 結合の例2



20 ページを 3 つのシートにレイアウトする方法を示します。

2 つのシートは 4 × 2 ページで、1 つのシートは 2 × 2 ページで、異なるサイズに分割し割付けします。

ステップ1

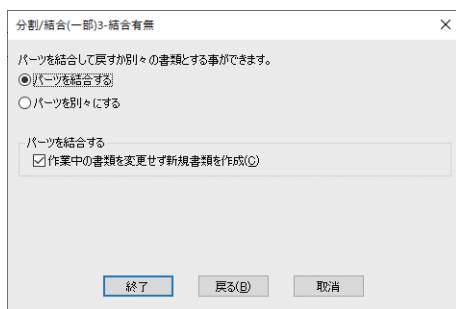
事前にシーケンスを作成しておきます。

コントロールパネル>ページ割り付け>

4 列 2 行割り付けを作成します。シーケンス名「割付 4-2」を保存しておきます。

2 列 2 行割り付けを作成します。シーケンス名「割付 2-2」を保存しておきます。

※割付のシートサイズは個別に設定してください。



ステップ 2

- 分割ページリストを使用し、ドキュメントを3つのパーツに分割します。
- 次に、ページレイアウトに必要な順序にページを並べ替えます。
- 必要に応じてページの回転を行います。

- パーツ 1 および 2 には、自動化シーケンスの割付 4 x 2 を指定します。
- パーツ 3 には、自動化シーケンスの割付 2 x 2 を指定します。
- 「パーツを結合する」を選択します。

81	8	5	91	51	9	2	14	6	12
20	1	4	17	18	3	2	19	10	11

分割 / 結合の例 2 詳細

サンプル書類を作成します。

20 ページ A4 サイズ (縦)

初めに分割方法を選択する必要があります。

分割したいページのリストを入力することで、自由度の高い分割を行うことができます。

コントロールパネル>「分割 / 結合 (一部)」

分割>「ページ数」

分割方法>「分割ページリスト」

分割ページの合計は次の値が必要です。> 20

それぞれ入力します。「次へ」

Piece1 に 13* 8* 5* 16* 20 1 14 17 と入力

数字の間はスペースで区切ります。

*はページを 180°回転させる記号です。

Piece1 の作成を選択します。

Piece2 に 15* 6* 7* 14* 18 3 2 19 と入力

Piece3 に 9* 12* 10 11 と入力

※数字の間はスペースで区切ります。

*はページを 180°回転させる記号です。

分割/結合(一部)1-分割方法

書類を分割します。選択オプションによりページを選択します。
分割後それぞれ異なるコマンドを実行し、再度結合する事ができます。

PDF書類にフィールドを結合する方法を選択します。

分割 分割方法

分割ページリスト
分割されたパーツのページ番号を表示します。
分割ページの合計は次の値が必要で: ページ

適用する自動化シーケンスを設定します。

各パーツは、正しいシートに正しい順序と向きで分割されます。

分割/結合(一部)2-分割詳細

ページ番号リスト表示し、各パーツのページを選択します。5.8 ページ 5 6 7 8, 3 2 10の場合、3.1のように表示できます。
各パーツに異なるコマンドを選択できます。(コマンドを選択しない場合は変更されません)

▼ Piece 1
ページ:
必要に応じて「作成」・「インポート」からコマンドを選択します

▼ Piece 2
ページ:
必要に応じて「作成」・「インポート」からコマンドを選択します

▼ Piece 3
ページ:
必要に応じて「作成」・「インポート」からコマンドを選択します

各パーツの「インポート」をクリックし、事前に作成した自動化シーケンスを選択します。

•Piece1 と 2 には「割付 4-2」

•Piece3 は「割付 2-2」

結果として、ページ分割→組み替え(回転)→

ページ割付 4 × 2 2 × 2 のレイアウトが行われます。

分割ページのコマンドリストを編集

2ページ結合
PDFページを結合
PDFページを結合
クリップ処理
タイルページ
データ結合を結合
トリムをトリム
トリムをトリム
ブックレットの作成
ページを結合
ページサイズ調整
ページワール
ページ割付
ページ挿入
ページ削除
マスキングテープを貼り付
マスキングテープを貼る
メッセージ
下付け
複製/複製ページ替
分割/結合(一部)
可変データ結合
手動面付け ページを追加
手動面付け 組み直し
手動面付け 開始
文字列化番号を貼り付
文字列化番号を貼る
条件
繰り返し設定

インポート...
編集
追加 >>
<< 除去
上に移動
下に移動

インポート済みシーケンス
4-2から 自動化シーケンスにインポート
インポート日時: 2020/09/01 11:28:08
コマンド ページ割付
新規登録
シートの半分もスペースをトリミング はい
ページの拡大・縮小を許可 いいえ
マージン 左: 56.69, 上: 56.69, 右: 56.69, T: 56.69
横方向のスペース(ポイント): 17.0079
縦方向のスペース(ポイント): 17.0079
トンボスタイル 2幅 0.28, 長さ 28.35, 距離 8.50
ページ周囲にフレームを追加 いいえ
シートサイズ 45.000 x 45.000 インチ / 1143.0

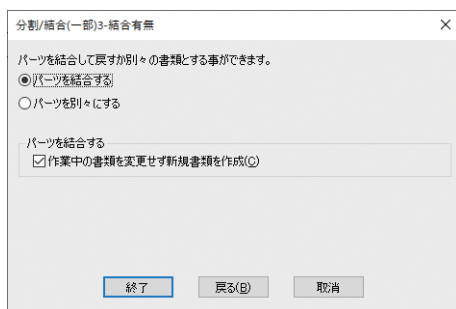
アイテム名

M 他のシーケンスまたはXMLからインポートできます

インポート選択
インポート情報は作成/置き換えします。
☐ XMLからコマンドをインポート
☒ 他のシーケンスからコマンドをインポートする(コピーを作成)

インポートシーケンス
カテゴリ:
名前(N):
検索:

インポート方法
☐ 編集可能なコマンドをインポートします(元シーケンスの参照無し)
☒ シーケンスをインポート(編集不可)



最後に、1つの書類に結合するか、パーツごとに別々にしておくかを選択します。

ページ割付機能の強化

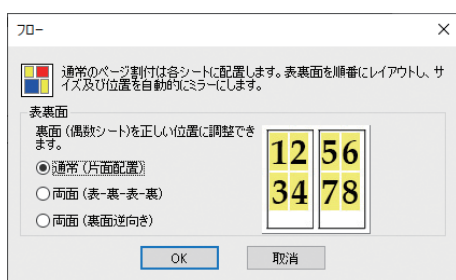
ページ割付および丁付け：フロー設定のミラー機能が強化されました。

注：この機能はページ組替後に使用できない機能です。

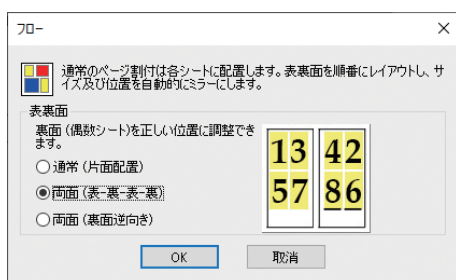
組替え後に使用した場合、レイアウトが正しく配置されない場合があります。

ページ割付：フロー設定

3つ目のページ割付ダイアログに、新しいフロー設定機能が追加されました。

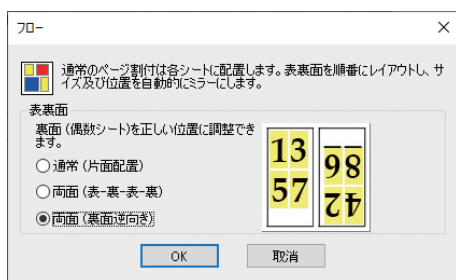


通常 (片面配置)



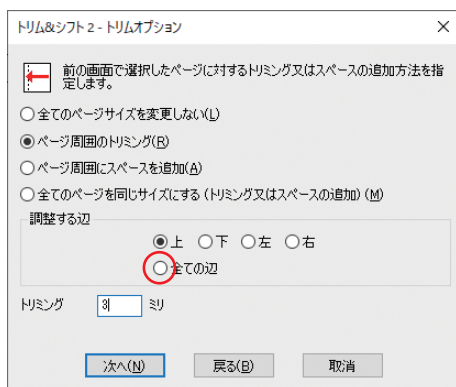
両面 (表 - 裏 - 表 - 裏)

ページは表面 (奇数シート) と裏面 (偶数シート) に交互に配置されます。裏面のシートは左右ミラーの位置となり、ページの並びは、右から左に配置されます。これは両面印刷時の裏面を正しい位置に配置します。



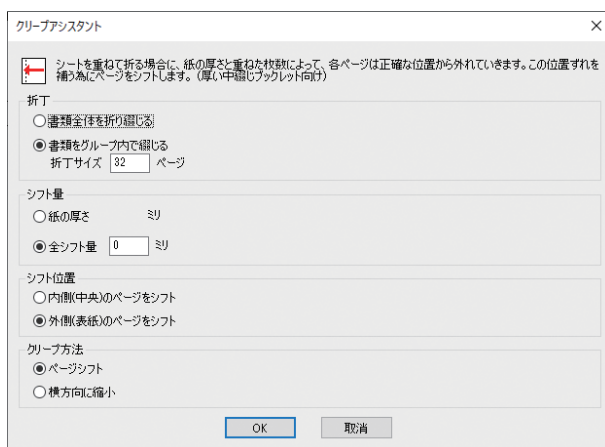
両面 (裏面逆向き) を選択すると、裏面シートが 180 度回転され、各ページの表面と裏面を正しい位置に配置します。このオプションを選択すると、ページの向きも上下逆に配置されます。

トリム / シフトとクリープの強化



バージョン 5.0 の新しい選択オプション「全ての辺」
4 辺全てからスペースがトリミングされるか、4 辺全てにスペースが追加されます。旧バージョンで各辺に対して 1 回ずつ、トリム / シフトを計 4 回実行する作業と同じ効果です。

クリープ：横方向に縮小

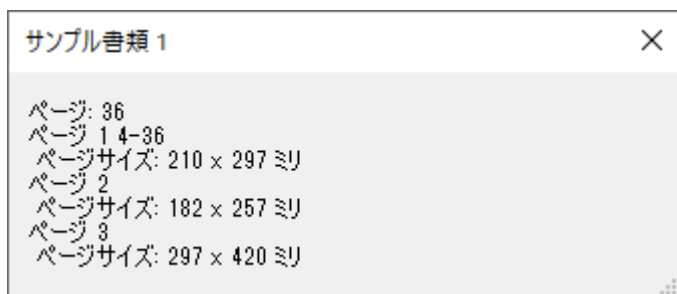


クリープはトリム / シフトの一部として、また単独の機能としても利用できます。

クリープの目的は、中綴じ製本において、紙の厚みを考慮に入れることです。（紙厚分の位置ずれを補正）

ページを「横方向に縮小」する新しい選択オプションが追加されました。従来のシフトを使用する際、コンテンツが切れてしまうケースに有効な機能です。

ページモニタ



プラグインメニューの「ページモニタ」>「モニタ表示」を選択すると、現在（手前の）書類に関する情報を表示できます。

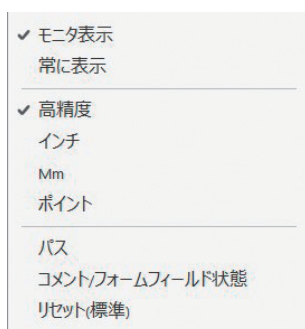
モニターに表示される内容を選択することができます。

- サイズは、インチ、mm、ポイント（複数選択可）から指定できます。

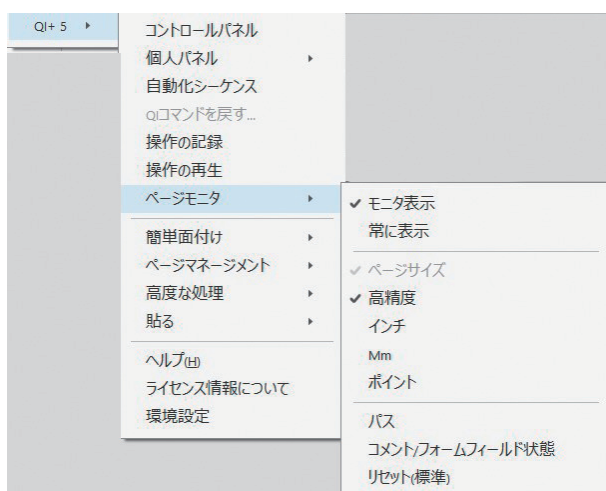
（デフォルトは Acrobat の環境設定）

- 高精度（Acrobat より小数点以下の桁数）または Acrobat と同じ精度を選択できます。
- ファイルのフルパスを表示するように選択できます。
- ファイルにコメント / フォームフィールドが含まれているかどうかを確認できます。

Acrobat が起動するたびに（最初のドキュメントが開いたとき）、ページモニタを表示するように選択することもできます。



「ページモニタ」メニューから、またはモニタを右クリックして、オプションを変更できます。



複数のページサイズを持つファイルの場合モニタ上ではサイズが自動的に変更され、裁ち落としを含む場合、その情報を表示します。

自動化シーケンスの機能強化

自動化シーケンス：シーケンス名の検索

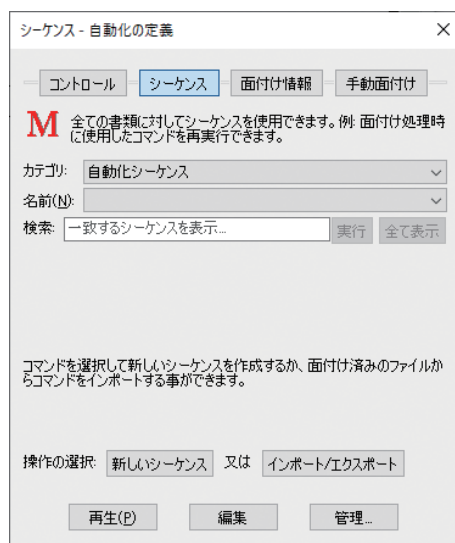
多数のシーケンス・カテゴリを登録している場合、必要なシーケンスを探すために時間を要します。

シーケンス名を検索する機能が追加され、検索文字列を入力して「実行」をクリックします。

- 名前が一致するシーケンスとそのシーケンスを含むカテゴリを表示します。
- 名前が一致するカテゴリは、一致するカテゴリすべてのシーケンスを表示します。

検索文字列が名前の一部に含まれる場合、シーケンス・カテゴリは部分一致で表示します。

自動化シーケンス：シーケンスのインポート



シーケンスのインポート（XML ファイルからのインポートを含む）により、シーケンスのメンテナンスにかかる時間を削減できます。

以前のバージョンでは、シーケンスを新しく作成をする場合など、一から作成していく必要がありました。

新しいシーケンスのインポートは、下記の場所でインポートボタンとして使用できます。

- シーケンスの作成及び編集（インポートで省力化）
- 「分割 / 結合（一部）」

アイテム名

M 他のシーケンスまたはXMLからインポートできます

インポート選択
 インポート情報は作成/置き換えします。
☒ XMLからコマンドをインポート
☐ 他のシーケンスからコマンドをインポートする(コピーを作成)

インポートXML
 ファイル ブラウズ
 詳細...

インポート方法
☐ 編集可能なコマンドをインポートします(元シーケンスの参照無し)
☒ シーケンスヘインポート(編集不可)

OK 取消

インポートボタンをクリックすることで、シーケンスのインポートダイアログが表示され、XML または別のシーケンスからインポートすることができます。

アイテム名

M 他のシーケンスまたはXMLからインポートできます

インポート選択
 インポート情報は作成/置き換えします。
☐ XMLからコマンドをインポート
☒ 他のシーケンスからコマンドをインポートする(コピーを作成)

インポートシーケンス
 カテゴリ: 自動化シーケンス
 名前(N): imposing 09
 検索: 一致するシーケンスを表示... 実行 全て表示
 詳細... ページ組替え ページ割付

インポート方法
☐ 編集可能なコマンドをインポートします(元シーケンスの参照無し)
☒ シーケンスヘインポート(編集不可)

OK 取消

シーケンスの作成編集 - 1

M 自動化のコマンドをコラムから選択します。(2通りの方法)
 1. コマンド名を選択して追加します。
 2. 操作の記録に記録されたコマンドから追加します。

2ページ結合
 PDFページを結合
 PDFページを貼る
 グリプ処理
 タイルページ
 データ結合を結合
 トリム&シフト
 トンボを結合
 ブックレットの作成
 ページを逆順に
 ページサイズ調整
 ページマージ
 ページ割付
 ページ挿入
 ページ組替え
 マスキングテープを結合
 マスキングテープを貼る
 マーカ

インポート...
 編集
 追加 >>
 << 除去
 上に移動
 下に移動

次へ(N) 戻る(B) 取消

QHI4.0 リリースノート



QHI4.0 リリースノート

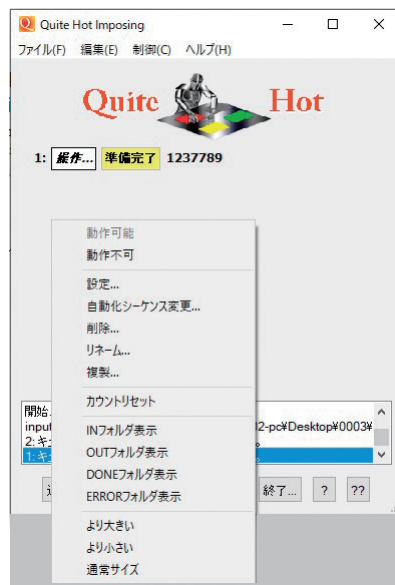
メイン画面デザインを一新しました。

最も分かりやすい変更点はメイン画面で、より分かりやすく、より多くのキューをシンプルな方法で管理できるように再設計されています。

シンプルな方法でより多くのキューを管理できるようになりました。

Windows 8 以降ではタッチスクリーンにも対応しました。

ディスプレイを大きくして、離れた場所からコントロールできます。



ジョブフォルダを許可（ファイル結合）

複数のファイルを特定のフォルダにまとめ、そのフォルダごと in フォルダに入れる事ができます。

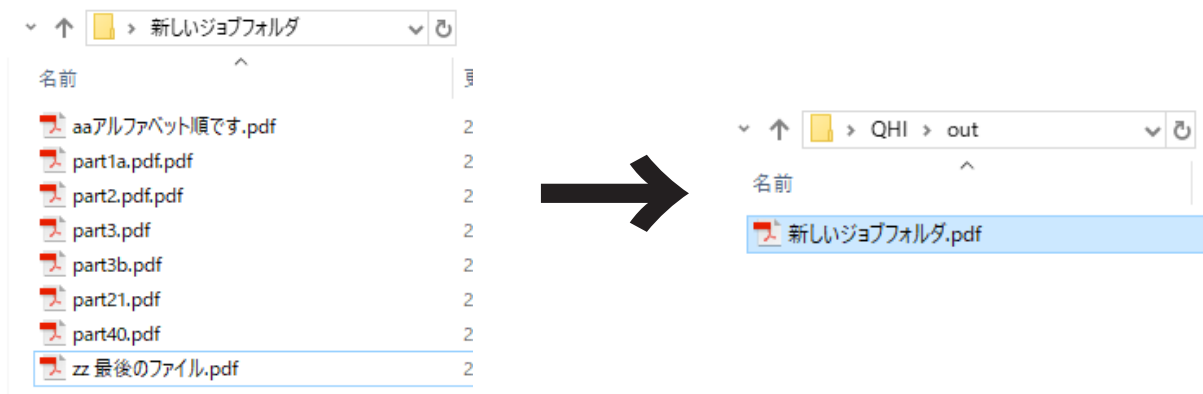
キュー制御

☒ 動作可能(準備OK)

待機時間: 秒(待機時間0も可能)

前置・後置無し

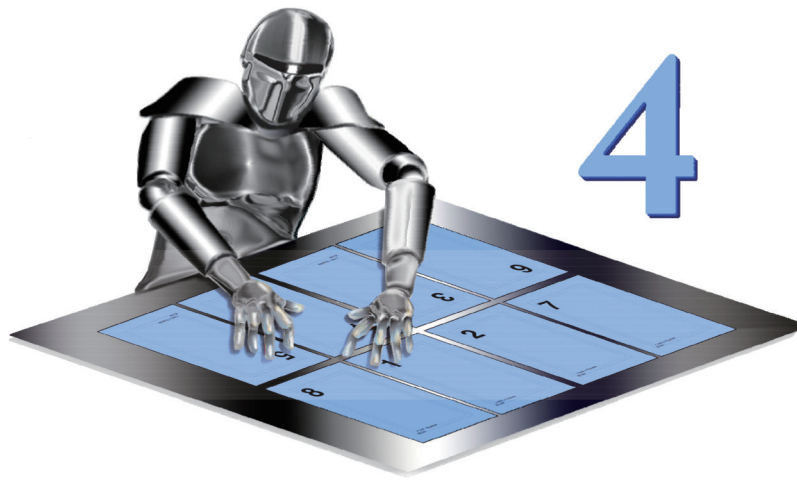
☐ ジョブフォルダを許可(ファイル結合)



フォルダ内の複数ファイルはアルファベット順に自動結合されます。

out フォルダにはフォルダ名と同じファイル名の面付処理された PDF ファイルが作成されます。

QI + 4 リリースノート



動作環境

Mac OS 10.7 以上

Windows 7 以上

Acrobat 9 以上 (Acrobat DC を含みます)

※ QI + 3 は Acrobat DC に対応していません。

環境設定及びシーケンス

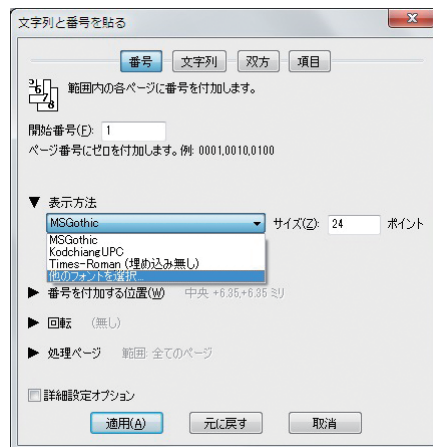
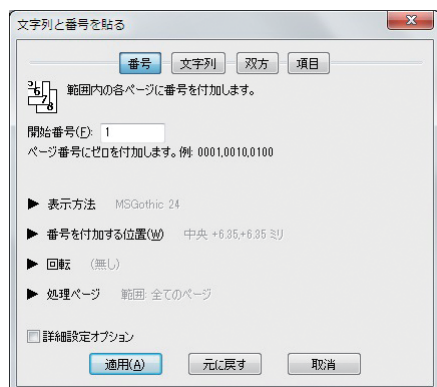
QI + 4 の初回起動時には、旧バージョンの環境設定を読み込み、QI + 4 用の設定ファイルを作成します。

目次

「文字列 / 番号」を貼る	29
フォントの埋め込み	30
ショートカット	31
挿入ページ	32
「タイルページ」	33
「PDF ページ」	34
「手動面付け」	35
スマートトンボ	36
「剥がす」	37
「ページサイズ」	38
「ページツール」	39
「ページ組替え」	40
「トリム & シフト」と「クリーブ」	41
「マスキングテープ」	41
シーケンスの「管理」	42

「文字列 / 番号」を貼る

「文字列 / 番号」を貼る機能は、選択項目が追加され、「元に戻す」機能を追加しました。各グループの詳細な機能は、▼マークをクリックして表示します。



文字列 / 番号は、適用ボタンで貼り付けられます。

この時ダイアログは「元に戻す」新しい機能を使用する為に、開いた状態です。

文字列の配置に問題がなく、追加の文字列もなければダイアログを閉じます。

配置に問題があれば、「元に戻す」機能を使用します。

フォントの埋め込み

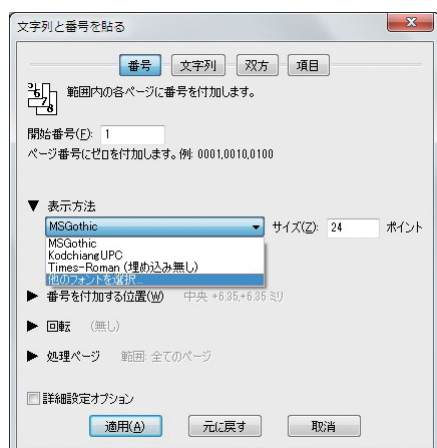
システムにインストールされた埋め込み可能なフォントを使用します。

一部のユニコード記号フォントも使用できます。

旧バージョンに内蔵されていたフォントも使用できます。システムフォントと区別する為に、(埋め込み無し) と表示されます。

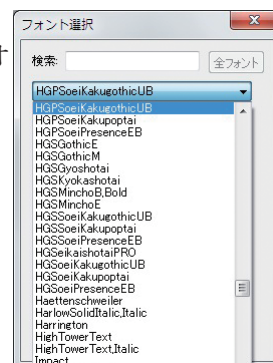
既存の 自動化シーケンスと XML ファイル には、旧バージョンのフォントが使用されます。

フォントリストには、最近使用したフォントを表示します。



フォント名の▼を選択します。「他のフォントを選択」

フォント選択ウィンドウが開きます。



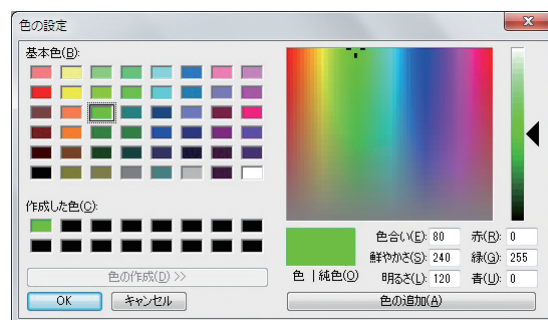
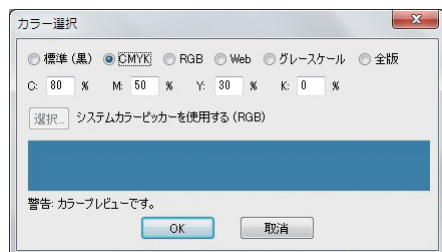
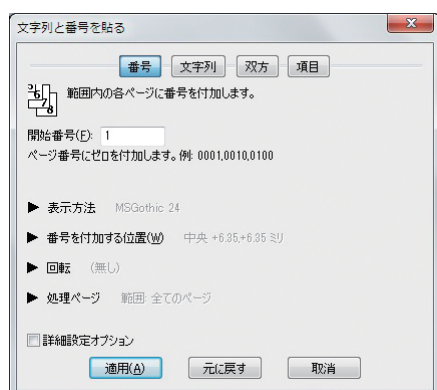
フォントの色を選択するとカラー選択ウィンドウが開きます。

標準は黒です。

CMYK タブでは各色%を指定できます。CMYK・グレー以外のタブではシステムカラーピッカーを使用できます。

※カラーピッカーはシステムに依存します。

Windows と Macintosh では表示が異なります。



QI + 3 以前のフォントを埋め込みできないバージョンでは、「PDF/X を保持」するオプションは、文字列などを追加できませんでした。

QI + 4 では文字列を追加する為に、埋め込みフォントを選択する事ができます。

ショートカット

QI + 4 には特定の操作をショートカットする機能があります。

通常は「前回と同じ設定」または「ダイアログ画面を表示しない」などのケースで使います。

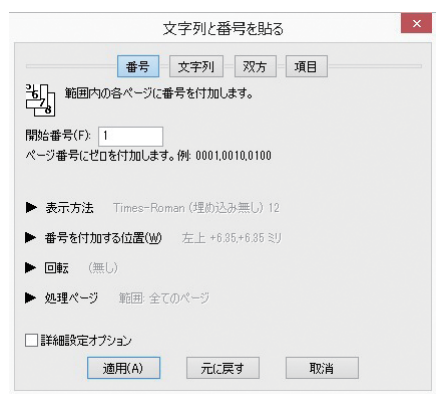
コントロールパネルでは、Shift キー＋任意のコマンドボタンをクリックして使います。

その効果は、ボタンのダイアログで「OK/ 次へ / 終了」まで選択した結果になります。

手動面付け画面で、Shift + 「ターゲットを変更」をクリックすると、現在の書類をターゲットに選択します。

「ソース選択」の場合は、ソースとして現在の書類を選択します。（前回と同じ書類ではありません）

「文字列 / 番号」・「マスキングテープ」・「PDF のページ」の貼り付けにも使えます。



Shift + 「適用」 (適用後ダイアログを閉じる)

Shift + 「閉じる」 (適用していなければメッセージを表示します)

Shift + 「元に戻す」 確認画面を表示せずに元に戻します。

Shift + 「次へ」 は、残りのダイアログをスキップします。

これは、「ブックレット」・「ページ割付」・「丁付け」・「トリム&シフト」で利用できます。

Shift キーを押しながら▼マークをクリックすると、全てのグループの詳細機能を開閉します。

挿入ページ

主な変更点はページを「一定間隔に挿入」する機能です。

ファイルを選択して挿入する場合は、最近使用したファイルを表示します。

「ブラウズ」を選択する事で他の PDF ファイルを選択できます。

ファイルの右側にある「I (情報)」アイコンは、ファイルの情報（サイズ・裁ち落とし情報）を表示します。

一定間隔に挿入

一定間隔に挿入する機能は、空白ページまたは選択したファイルを挿入します。例えば以下のような用途があります。

例 1：現在開いている書類（全てのページ）に、裏面を挿入する。

例 2：書類の 3 ページごとに空白ページを挿入する。

「繰り返し方法」は、「挿入する書類全体」を指定するか、繰り返す回数を制限する事ができます。

一定間隔に挿入する詳細設定オプション

「ファイルの挿入」には「詳細設定オプション」のチェックボックスがあります。

より詳細なオプションを表示します。

例：書類に共通の裏面を挿入する場合は、「書類全体を繰り返す」事ができます。

これは繰り返し同じ裏面ページを挿入します。

二つの書類を一定間隔に挿入する為に使用するケース

例：一つの書類から表面、他の書類から裏面を挿入する場合に「挿入する間隔 1 ページ」を選択します。

The screenshot shows a dialog box titled "ページの挿入" (Page Insert) with a close button (X) in the top right corner. It has two tabs: "空白ページの挿入" (Insert Blank Page) and "ファイルの挿入" (Insert File), with the latter being selected. Under "挿入ページの種類" (Insert Page Type), a file path is shown in a dropdown menu, and the "書類全体" (Entire Document) radio button is selected. Below this, the "開始ページ" (Start Page) is set to 1 and the "終了" (End) is set to 1. The "一定間隔に挿入" (Insert at regular intervals) checkbox is checked. Under "一定間隔に挿入" (Insert at regular intervals), the "挿入開始ページ" (Insert Start Page) is set to "指定ページの後" (After specified page) with a value of 1. The "挿入する間隔" (Insert interval) is set to 1, and "ページごとに挿入" (Insert per page) is selected. Under "繰り返し方法" (Repeat method), the "間隔" (Interval) radio button is selected with a value of 1, and "ページごとに挿入" (Insert per page) is selected. The "書類全体を一度だけ挿入する" (Insert entire document only once) option is also visible. At the bottom, the "詳細設定オプション" (Detailed setting options) checkbox is checked, and there are "OK" and "取消" (Cancel) buttons.

「タイルページ」

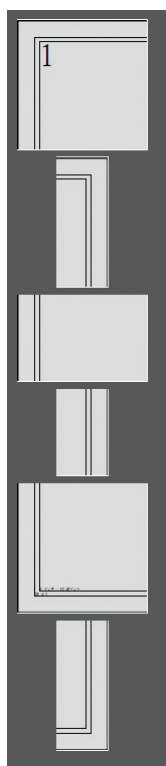
QI + 3 は、行数と列数を選択する方法でタイルページを作成しました。

QI + 4 では、幅と高さを調整する方法を追加しました。

正確なサイズに分割するケースに使用します。

例：A4 縦サイズを異なるサイズに 6 分割します。

幅に 150 60 高さに 150 100 47 と入力します。



結果として

150 × 150 ミリ

60 × 150 ミリ

150 × 100 ミリ

60 × 100 ミリ

150 × 47 ミリ

60 × 47 ミリに分割されます。

The screenshot shows a dialog box titled 'タイルページ' (Tile Page). It contains the following text: '現在の書類を小さいページに分割します。面付けデータを分割しますが、ページの順番は変更されません。' (Divide the current document into small pages. The page layout data will be divided, but the page order will not change.) Below this is a checkbox '作業中の書類を変更せず新規書類を作成(O)' (Create new document without changing the document being worked on (O)). There is a dropdown menu '幅・高さの選択' (Select width/height). Below that is a note: '数値を1つ又は"2.5 5 3"のように指定します。数値は必要な分だけ繰り返し使用されます。' (Specify a value or "2.5 5 3" like this. The value is used as many times as needed.) Another note: 'タイルサイズの方が大きい場合を除き、指定したサイズは正確です。' (Except when the tile size is larger, the specified size is accurate.) There are two input fields: '幅' (width) with '150 60' and 'ミリ' (mm), and '高さ' (height) with '150 100' and 'ミリ' (mm). Below these is a note: '横方向のスペースは常に左から右に、縦方向は上から下に指定します。' (Specify horizontal space always from left to right, and vertical space always from top to bottom.) At the bottom, there is a section '設定するページ' (Set page) with three radio buttons: '現在のページ' (Current page) which is selected, '書類全体' (Entire document), and '開始ページ' (Start page). Below the radio buttons are input fields for '1' and '終了' (End) with '24'. At the very bottom are 'OK' and '取消' (Cancel) buttons.

ページサイズのドキュメント情報でサイズが確認できます。

分割するページの幅まで、入力された数値を繰り返し使用します。

「PDF ページ」

この新機能は他の PDF 上に PDF を追加する事ができます。

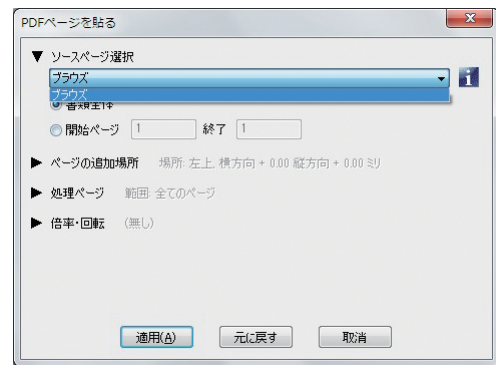
例：グラフィックス、ロゴ、広告、スタンプなどを追加します。

全てのページまたは指定範囲に対して、ソースページをターゲットに貼り付ける事ができます。

複数のターゲットに対して複数のソースページを追加する事もできます。

ソースページが不足した場合は、ソースの範囲が繰り返し使用されます。

(ターゲットページの不足はエラーになりません。)



配置する位置を指定します。(原点を選択します：各コーナー・上下左右・中心)

ターゲットのソースが配置されるエリアに赤い枠が表示されます。

ソースページが正しい位置に配置されない場合は、すぐに元に戻す事ができます。

ファイルの選択

プルダウンメニューのブラウズを選択してソースファイルを選択します。

メニューリストには、最近使用したファイルが表示されています。

情報ボタン「i」は、ファイルのページサイズとページ数を表示します。

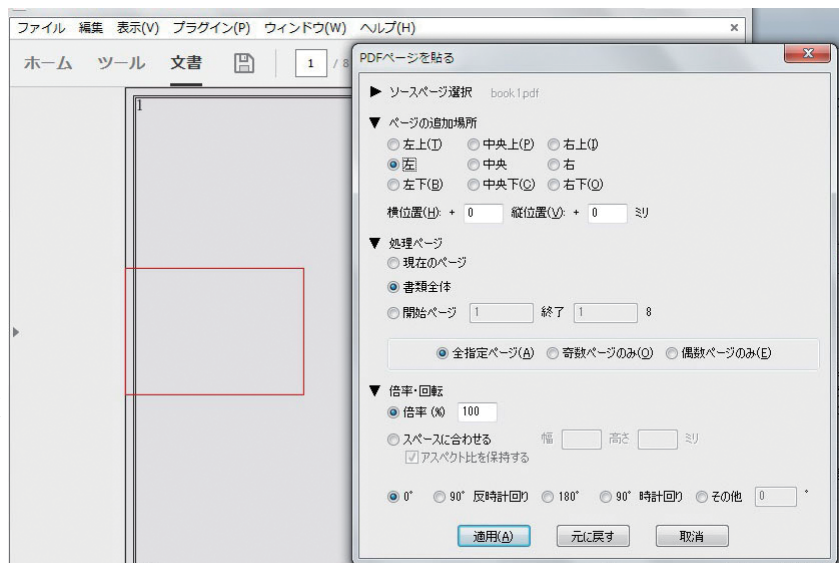
倍率

通常は 100% のページサイズで配置します。

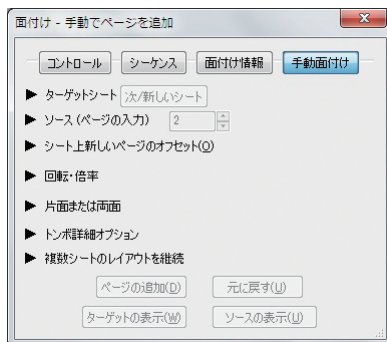
倍率を変更して配置する場合、赤い枠に注意して配置して下さい。

アスペクト比(縦横比)を保持して配置するオプションが選択できます。

アスペクト比の保持機能は、ソースページのサイズが異なる場合には推奨されません。



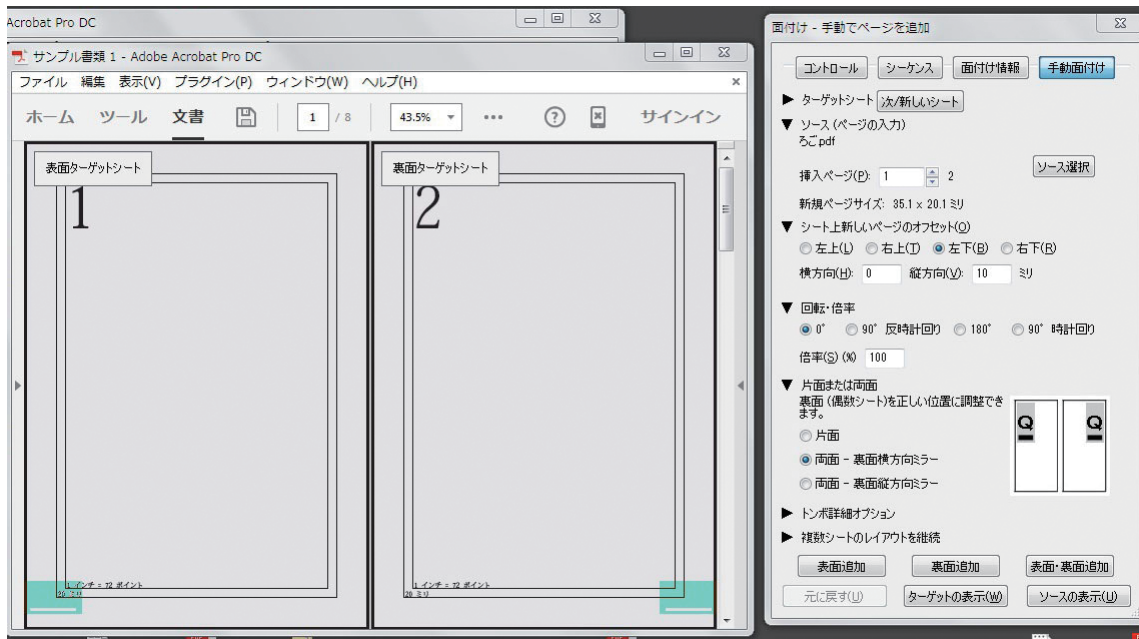
「手動面付け」



通常マーク類を両面に配置する場合は、手動面付けを使用します。

以前のバージョンでは、表面とミラー反転するように、注意して計算する必要がありました。新機能では裏面処理の操作性を高める機能を追加しました。

片面だけの場合は片面を選択できます。



裏面横方向ミラーは、例えば左から 10 ミリの場合は、右から 10 ミリになります。

裏面縦方向ミラーは、例えば上から 10 ミリの場合は、下から 10 ミリになり、裏面のソースは 180°回転します。

自動的にターゲットページの表面・裏面を左右のページに表示します。

表面は常に奇数ページで裏面は常に偶数ページです。

ターゲットシートは少なくとも 2 つのシート（表面・裏面）になるように自動調整されます。

ソースページを追加する 3 つのボタンが追加されました。

「表面追加」・「裏面追加」・「表面・裏面追加」

表裏のシートにソースページが追加されるエリアをハイライトで表示します。

「表面追加」をクリックすると表面だけに追加されます。

この時、回転・オフセット位置などの数値はそのまま使用されます。

「裏面追加」をクリックすると裏面だけに追加されます。

この時、ミラー方向・回転・オフセット位置などの数値は自動的に調整されます。

スマートトンボ

「トンボを付加」をチェックすると、「スマートトンボ」を選択する事ができます。

スマートトンボはページに重ならないように配置されます。

手動面付けの「スマートトンボ」は、「ページ面付け」または「丁付け」機能を使用した場合と同様な動作になります。

トンボを一度追加した場合

ページとのオーバーラップが発生した場合に再度調整する事ができます。

トンボ自体は重ならないように調整されますが、隣接するソースページが同じサイズであればセンタートンボのように変形します。

手動面付けからのトンボマークにのみ影響を受け変形します。

複数シートのレイアウトを継続

以前のバージョンでは、各シートごとに個別設定する必要がありました。

シート数の多い繰り返し作業には手間がかかりました。

新機能では1枚または表裏2枚のシート、繰り返しを選択するオプションがあります。

手動面付けを繰り返す場合、ソースに繰り返す分のページ数が必要です。(ターゲットシートも同様に必要)

ソースページを追加すると、「繰り返す」ボタンが使用できます。

新しいシートを作成する予想値が表示されます。

また「元に戻す」機能が利用できます。全体の繰り返し処理を元に戻す事ができます。



「剥がす」

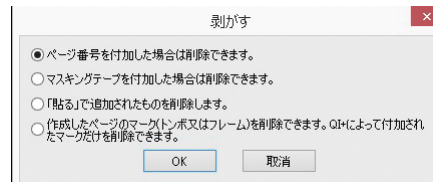
QI + 3 では、「文字列 / 番号」・「マスキングテープ」・「トンボを剥がす」機能がありました。

QI + 4 では「PDF ページ」を剥がす機能が追加されました。(PDF ページを貼る機能で追加された PDF を除去します)

「元に戻す」

QI + 4 ではこの機能を、より多くのコマンドに拡張しました。

QI + 4 の「元に戻す」機能は、面付け後に PDF ファイルへ記述された XML 情報を参照しています。



ファイルを保存した後でも、対応する機能であれば元に戻す事ができます。

「元に戻す」機能は、戻すコマンドがどのくらい前の作業なのか経過時間を表示します。

QI + 4 の「元に戻す」を優先する場合、Acrobat 自体の「元に戻す」の機能は使用しないで下さい。

「ページサイズ」

「ページサイズ」の調整にも新しい調整方法が追加されています。

ページサイズ情報

ページサイズ調整の「ドキュメント情報」ボタンはページサイズを表示します。(裁ち落とし情報を含む)



倍率

QI + 3 は、ターゲットに対する拡大・縮小を選択する事ができました。

QI + 4 では倍率を指定する事ができます。

「ページと同じ」

事前にサイズを調べなくても、書類と同じ大きさのページを設定する事ができます。(詳細設定オプションの選択時に表示します)

ページサイズは、選択したページと同じになります。

「同程度のサイズを調整する」

この機能は、必要とするサイズに近いサイズのページを調整します。

その他のページに影響しない為、サイズの異なるページ構成の PDF を処理する場合に使用します。

「ページツール」

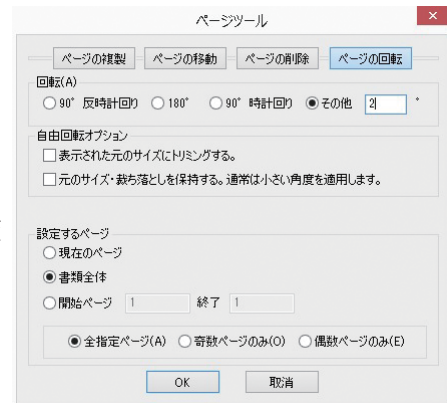
自由回転

ページは任意の角度で回転できます。

例えば 1.25 度といった正確な角度を設定する事ができます。

元のページの周囲に白地部分がある場合、元のページがトリミングされたか裁ち落とし領域を持っていた可能性があります。

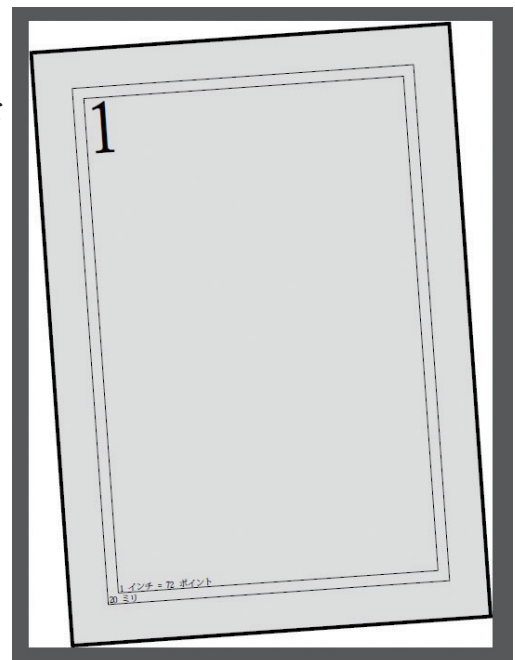
自由回転した場合、元のページサイズと同じサイズであれば、ターゲットサイズを大きくする必要があります。



「表示された元のサイズにトリミングする」

元のサイズのまま回転し、角を欠落しないように白地をトリミングします。

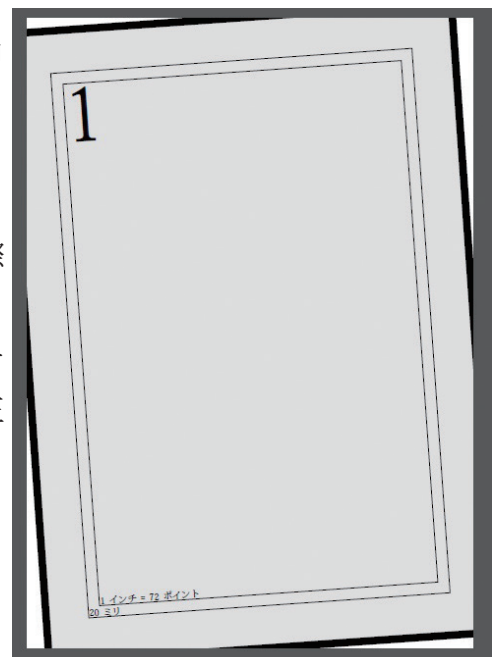
ページサイズは大きくなります。



「元のサイズ・裁ち落としを保持する。通常は小さい角度を適用します」を選択すると、例えば 30 度の回転では、一部の角が欠落します。

このオプション調整は、非常に小さな自由回転を行う際に便利です。

出力機によっては、両面時の見当ずれの問題があり、その誤差が一定な場合は、このオプションを使用して補正する事ができます。



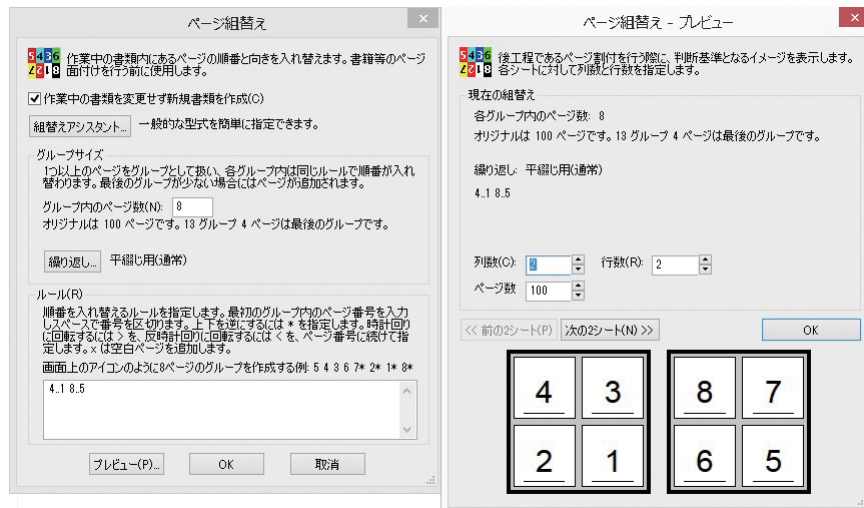
「ページ組替え」

高速処理と制限解除

ページルール（ルールの手動入力と制限解除）

大量ページの特種なページ組替えが必要なケースでは、組替えアシスタントが利用できない繰り返しルールがあります。

その場合に、ルールの手動入力に関する入力字数の制限を解除しました。



組替え範囲

ルールの手動入力で..（ドット2つ）を使用できます。

例えば 5..8 は 5678 です。4..1 は 4321 を入力した意味となります。

例：「1..100 200..101」これは 200 ページのグループサイズで、101 ～ 200 ページを逆順に 301 ～ 400、501 ～ 600 と繰り返します。

「トリム & シフト」と「クリープ」

クリープ機能

QI + 4 では、独立したコマンドとしました。

「トリム & シフト」機能の中にもクリープは残されています。

裁ち落としマージン保持

以前の裁ち落とし情報は、トリム & シフトの前に削除されます。QI + 4 からは裁ち落としを保持する選択ができます。

(クリープアシスタントの詳細オプション内)

「マスキングテープ」

この機能は「文字列 / 番号」を貼るのようなボタン構成(適用 / 閉じる / 元に戻す)になりました。またマスクのカラーを選択する機能を追加しました。

カラーバリエーションは、デバイス RGB、CMYK、グレースケール、レジストレーションです。(ICC プロファイルは適用できません)

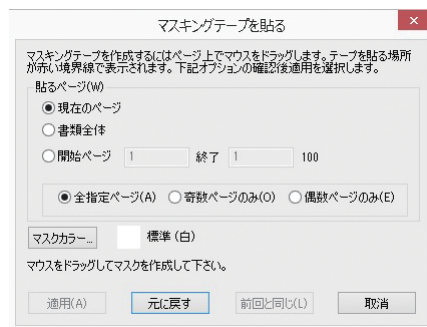
PDF/X サポート

全ての PDF/ X は、そのルールの一つとして、フォントを埋め込む必要があります。

注意点

RGB と CMYK は ICC プロファイルにタグ付けされません。

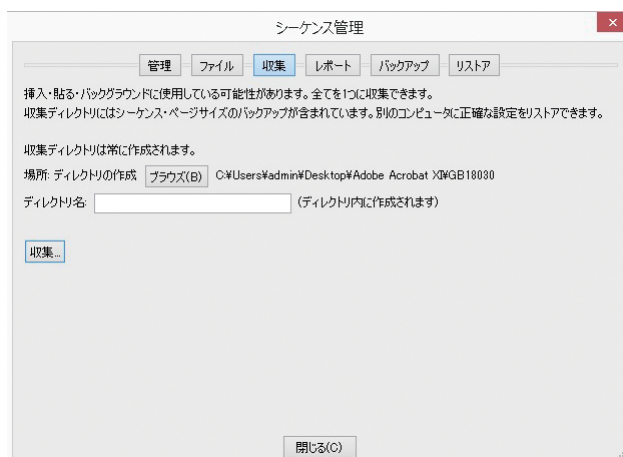
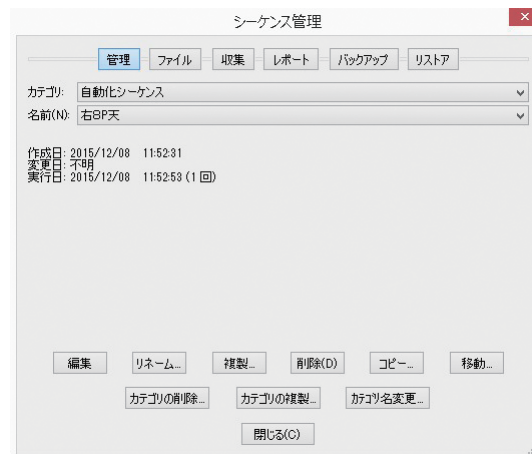
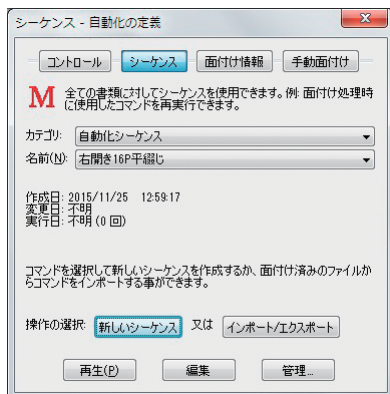
RGB 値の範囲: 0 ~ 255、CMYK の範囲: 0 ~ 100%



全版(レジストレーション)を選択する場合は 100%を使用して下さい。

シーケンスの「管理」

管理機能は、シーケンス名の変更・移動・複製によるシーケンスの管理ができます。



シーケンスの「収集」は、新しいシステムへ移行する場合など、使用される全てのファイルとシーケンスを収集する事ができます。